和歌山県立
日高高等学校
SGH通信
第２３号
2020年2月17日

2019年度◆SGH海外研修◆
ベトナム研修 その２

2019年11月4日 ～ 11月9日

テーマ「地域産業」

↑現地研修・ベトナム AEON にて

←現地研修・プラスチック村

２年５組　上田　遥菜

ベトナムでの２日目は、私たちのメインテーマであるプラスチックゴミリサイクルに関する内容を学ぶことができた日でした。

現地で活動するコンサルタントの和田秀樹さんが、この日は一日中私たちの研修をサポートしてくれました。

まず、和田さんは「VWP（ベトナムウェストプランニング）」について話してくれました。これはベトナム廃棄物エネルギー化プロジェクトの略です。ベトナムのゴミ問題の特徴の一つに、既存処理場からの環境汚染が問題視されていることがあります。また、ベトナムは家庭から出たごみをそのまま廃棄しているため、日本は100年間に7～8,000ｔの排出に対して、ベトナムは10年間で6,000ｔものゴミが処理場に送られている事実などを話してくれました。

ハノイからバスで1時間ほど移動した後、プラスチック廃棄物処理場に到着しました。そこでは大きく分けて3つのことを教えてもらいました。

1つ目は、ベトナムは日本の技術を利用して最大4,000ｔものゴミを燃やすことやそれによって発電ができる焼却炉の設立を予定しており、それに対して1年に2度はゴミ処理場へ近隣住民からの抗議デモがあるということです。ベトナムのゴミ問題における課題は既存処理場からゴミを燃やすことで飛灰やメタンガスなどが発生するために起こる環境汚染問題です。また、汚水処理が一番難しく、困難だということです。

2つ目は、課題対策として悪臭を放たないために消臭剤を使ったり、汚水が雨に流れ出ないようにするためにゴミの上にセメントで膜を作ったり、また少しでも無駄に燃やすごみの量を削減し環境を守るために可燃物か不可燃物かで分別をしているということです。

そして3つ目は、市の対策として、道路、河川、鉄道からガス、電話などの生活基盤や社会経済産業基盤（インフラ）を作ること、市内住民の健康調査をすることや建物を建てること、スーパーのレジ袋をナイロンから紙袋に変えることをしているということです。

この研修を通して、日本とベトナムの企業とが協力し合い、ゴミ処理や水処理などを行っていることを学びました。今日両国が陥っているゴミ問題についての知識を深め、今よりもっと良い環境づくりをすることができる関係の素晴らしさを改めて感じました。